

い・せ・き ワールド in 前橋 2011



1 山王庵寺伽藍配置想定図

さん の う は い じ に し か い る さ り な せ つ ま だ ん た て も の と
山王庵寺西回廊に隣接する基壇建物跡

用語解説

- ☆【回廊】塔や金堂、講堂などを囲む屋根付の廊下。
- ☆【版築】土止めの板の間に薄く土を盛り、棒で突き固めて層状に盛り上げる工法。中国・朝鮮半島を経由して日本にもたらされたと言われている。



☆版築の断面を見てみると、土が何層にも重なっている様子が分かりますね。この版築にはこぶしぐらいの大きさの石が混ぜられていました。

国史跡「山王庵寺跡」の調査について

山王庵寺は前橋市總社町に所在し、7世紀後半に建てられた、古代東国では最古級の寺院跡です。これまでの発掘調査や様々な発見によって約80m四方の回廊内に塔・金堂・講堂、中門を配置した立派な寺院であったことが分かってきました。平成20年3月には国史跡の追加指定を受け、史跡名も「山王塔址」から「山王庵寺跡」に変更されました。

前橋市教育委員会では、平成18年度から5ヵ年計画で山王庵寺の発掘調査を行っています。この調査では、寺院の諸施設やその周囲の様子について、さらに詳しく調べることを目的としています。今年度は第5年次の調査として、回廊と寺域周辺の調査を行いました。寺院北東では建物跡と考えられる遺構と遺物が大量に出土した浅い溝状のくぼみが、寺域西側では寺院より古い住居がそれぞれ確認されました。また、塹濠出土地の南側で掘立柱建物跡と集瓦遺構が確認されました。

平成22年度の発掘調査

今年度も前橋市のたくさんの場所で発掘調査が行われました。発掘調査では、住居の生活の跡や、おわん・かめ・つぼなどの道具がたくさん見つかりました。見つかったもすると昔の人々がどのようにして生活していたかが分かります。

元総社蒼海遺跡群(32)～(37)

☆元総社地区では、前橋市が区画整理(新しい道路などをつくり、みんなの生活を便利にすること)に取り組んでいます。今年度も区画整理が行われる前に元総社地区の発掘調査を行いました。古墳～奈良・平安時代にかけての住居跡がたくさん見つかりました。

蒼海(32)

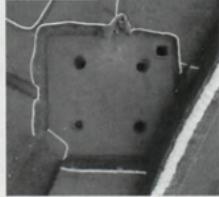
☆国府より古い時代(古墳時代)の住居、国府より新しい時代(平安時代)の住居が見つかりました。国府の近くであったために国府が仕事をしている時代には一般の人々は家をつくれない範囲があったと考えられます。とても深い蒼海城の塹跡が見つかりました。



↑ 蒼海城の塹跡

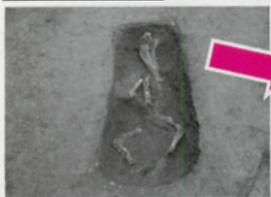


↑ カマド横から出土した壺



↑ 4つの柱穴や貯蔵穴がしっかりと残っていた住居跡

蒼海(33)



☆中世の土坑の中からほぼ全身の馬の骨が出土しました。この馬は現在の競争馬(サブレット)とは違い、大昔から日本に住んでいる日本固有の馬です。



↑ 下あごの部分の残りがとてもよく、齒もきちんと残っていました。



☆地面にたくさん穴があいていますね。これは粘土探査坑(ねんどさくついこう)で奈良・平安時代ものと考えられます。ここからとれる粘土を使って昔の人は建物の基礎(きそ)や土壁(つちかべ)をつくりました。

蒼海(35)



☆高盤(こうばん)とよばれる土器です。国衙(こくが)と呼ばれる役所で使われていたもので大変貴重なものです。

ひとことプラス！

日本固有の馬の特徴

- ・肩までの高さの平均は130cm、体重400kg程度でありサラブレッドよりも小型。
- ・頭長短足であり、体の幅が広い。
- ・足蹠が強く、蹄(つば)の張りがきくため斜面やぬかるみでも平気。
- ・盲腸が長く、太いため、草のみで飼育可能。
- ・性格はおとなしい。



東 ← --

調査

土坑・溝などのをよく観察



平成22年度前二子古墳 石室復元市民プロジェクト

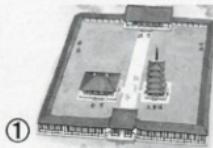
前二子古墳の石室は明治11年にあけられ、たくさん副葬品(ふくそうひん)が発見されました。このプロジェクトは当時の石室の姿を再現(さいげん)しようとする市民参加型の事業です。

前二子古墳の石室から出土した須恵器小像付鏡台とその仲間の土器を10月からボランティアのみなさんで制作し、12月に焼きました。



↑制作した土器を鳴石町の「一心窯」で焼きました。写真は焼成後の窯の中。

① 山王廃寺伽藍配置想定図

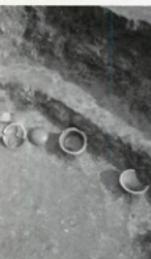


①

山王廃寺跡

元總社蒼海遺跡群(32)～(37)

☆6世紀前半(古墳時代)の住居のカマド横からは大量の土器が出土しました。バラバラになっていたものも復元してみると全部で36個の土器になりました。



前橋城(南曲輪地点)

☆江戸時代に建て直された前橋城「二の丸」の外堀が見つかりました。

蒼海(34)

☆奈良・平安時代の住居跡が見つかりました。園分寺の基壇(きだんぐ)で使われていたと考えられる石が住居のカマドに用いられていました。

☆「布垣」という特殊な工法でつくられた掘立柱建物。東西約5mの間に4本の柱が建てられました。使用した柱の長さがまちまちであったために穴の深さを調整して建物の水平をどりました。

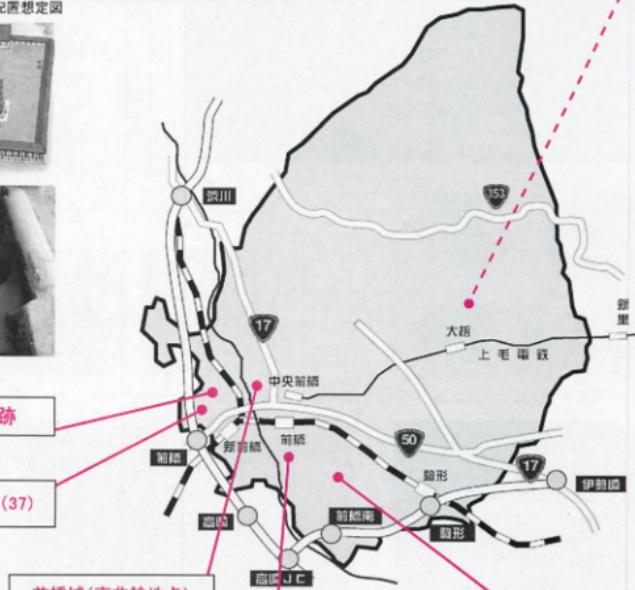


蒼海(36)

☆古墳・平安時代の住居跡、水田跡、蒼海城の堀跡が見つかりました。

蒼海(37)

☆古墳・平安時代の住居跡が見つかりました。



前橋城(南曲輪地点)

☆江戸時代に建て直された前橋城「二の丸」の外堀が見つかりました。

六供遺跡群No.6

☆古墳時代の住居跡が見つかりました。

朝倉伊勢西遺跡

☆平安時代の住居跡が見つかりました。

BC16000	BC3000	46000	710	734	1192	1303	1573	1608
通文	御生	古墳	京唐	平安	律令	室町	安土	桃山

平成22年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	主な時代
朝倉伊勢西遺跡	朝倉町	平安時代
山王廃寺跡	総社町総社	奈良・平安時代
前橋城(南曲輪地点)	大手町	平安、近世～近代
元總社蒼海遺跡群(32)～(37)	元總社町	古墳、奈良、平安～中世
六供遺跡群No.6	六供町	古墳、中・近世

こうぎょくこくふじよ 上野国府跡

人々でにぎわう上野国府(想像図)



こうぎょくこくふじよ
上野国府は、古くから元総社町の總社神社の東の牛池川から人形や「國
厨」や「營司」と書かれた墨書き土器がたくさん見つかりました。また、
関越自動車道をつくるときの発掘調査では國府の神社跡が発見され
ました。当時使われていた文房具なども発掘されています。これらの
ことから、總社神社から関越自動車道の一帯が、國府の範囲と推定
されます。

こうぎょくこくふじよ
現在、前橋市教育委員会では上野国府の解明を目的に、元総社
おとうづくら
蒼海地区で発掘調査を行っています。

- こうぎょくこくふじよ
用語解説
- ☆【國府】 国司が儀式や政治を行った建物や役人が働いていた役所、役人の家、兵士の宿舎、市場、学校、百姓の家などを含む全体の総称。
 - ☆【國厨】 役人の食事を提供する台所の施設。
 - ☆【營司】 役所の建物の総称。



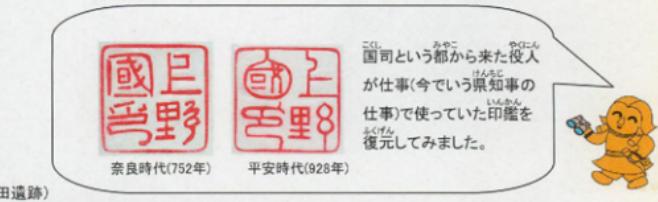
↑ 施設の名前が墨で書かれた土器(元総社寺田遺跡)



↑ 関越自動車道の調査で発見された
國府の神社跡(鳥羽遺跡・復元)



↑ 当時の役人が使っていた文房具(復元品)



↑ 元総社公民館の調査で発見された
大型建物跡(元総社蒼海9)

ひとことプラス！

645年の大化の改新以降、古代の律令国家は、現在の都道府県にあたる地方行政単位として全国を60余りの国に分け、大国、上国、中国、下国などの等級に格付けました。

上野国の範囲は、現在の群馬県とほぼ同じで、14の郡(今でいう市町村)を管轄する大国でした。



●問い合わせ●

平成23年3月31日発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10番地2 電話027-231-9875・9531 FAX027-231-9862
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
メール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp